

文部科学省 「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」



2022年2月21日(月) TEEPセミナー in 高知  
**実務家教員の可能性と大学の役割**  
説明資料

報告者: 鵜飼宏成

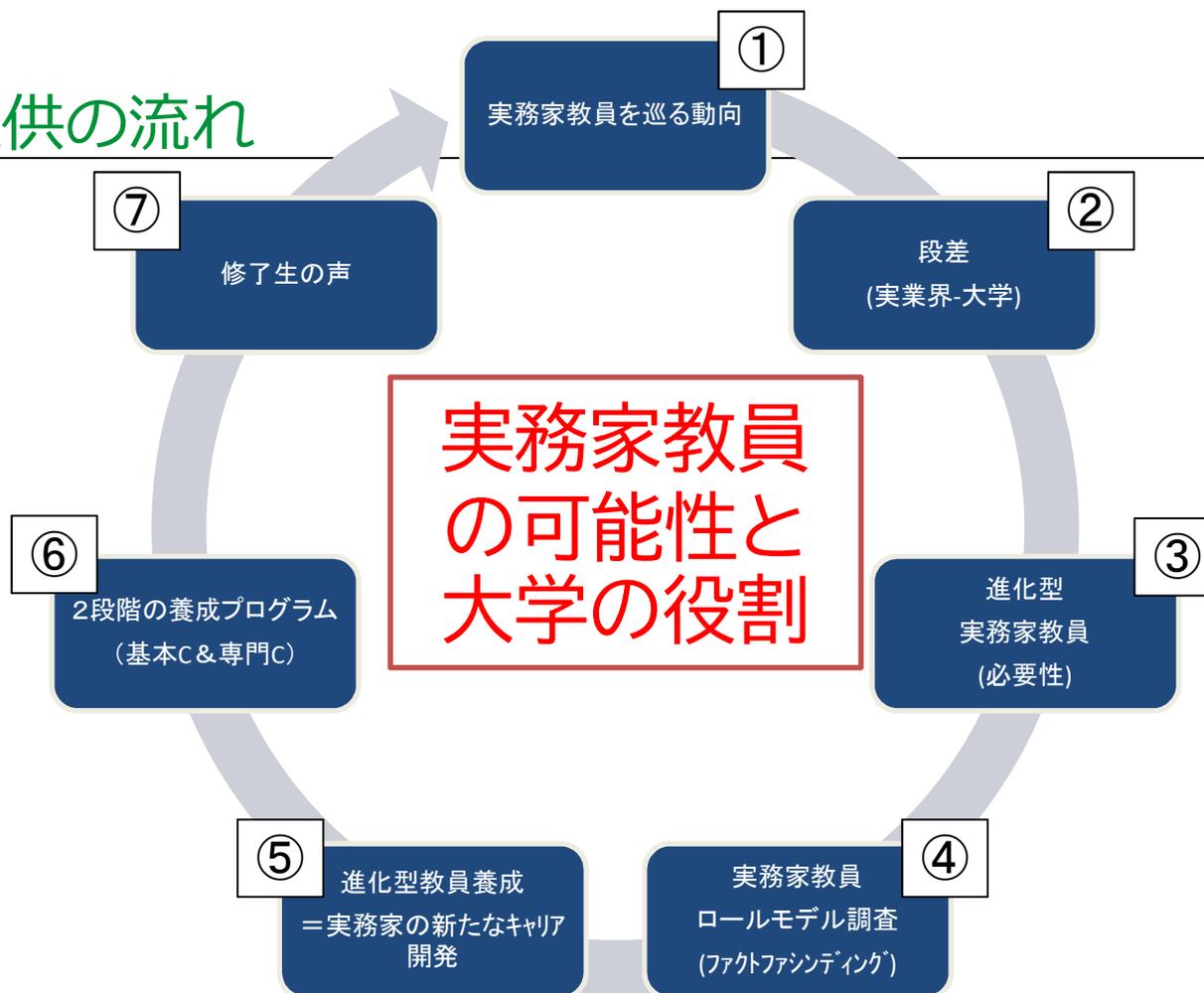
[TEEP実施委員長/名古屋市立大学 副理事・経済学研究科教授]



「進化型実務家教員養成プログラム (TEEP)」

名古屋市立大学・岐阜薬科大学・高知県立大学・中京大学

# 話題提供の流れ



1st:

大学における実践的な学びの場の創出と人材開発

文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」

# 進化型実務家教員養成プログラム

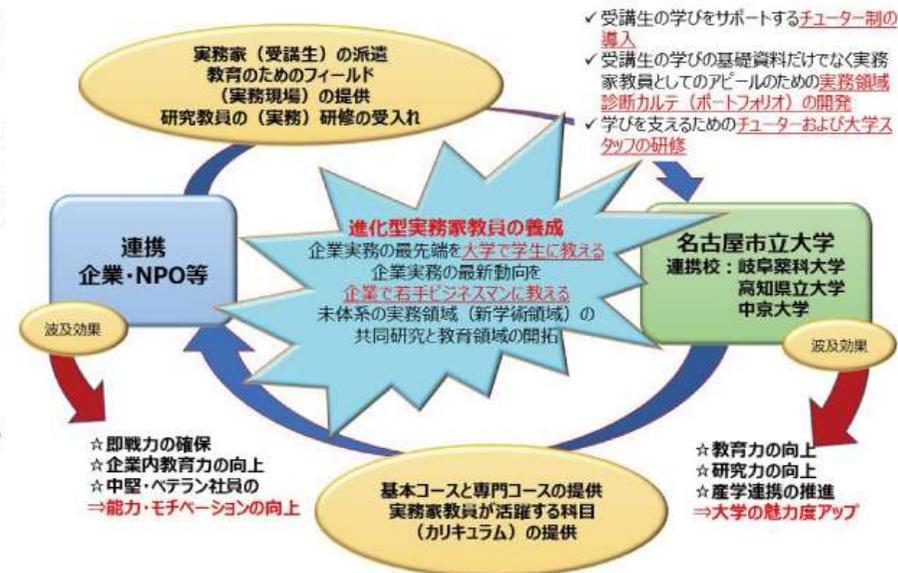
2nd:

実務家教員の養成は、その取り組みの一つ！

名古屋市立大学が申請した、PBL (Project-Based Learning: 課題解決型学習) と IPE (Interprofessional Education: 多職種連携教育) を重視して実務家教員の養成に取り組む「進化型実務家教員養成プログラム」が採択されました(全国での採択件数4校)。

このプログラムでは、岐阜薬科大学、高知県立大学、中京大学および連携企業(株式会社愛知銀行、株式会社スノーム)との協力関係のもと、企業実務等の最先端を大学で学生にわかりやすく教えることができる人材、経営実務・減災医療などの分野で実務の最新動向・技術などを職種・組織横断的に指導できるリーダーシップを備えた高度専門人材を養成します。

- 1 取組名称 PBLと多職種連携を活用した進化型実務家教員養成プログラム (TEEP: Training for Emerging Educators and Practitioners) 構築事業
- 2 事業期間 令和元年度から令和5年度まで5年間
- 3 目的
  - ・Society5.0の到来と高度化する企業実務に呼応した学びを教育現場で実践する実務家教員の養成
  - ・実務家の「教育力」の向上と「新領域(新学術領域)での解決力」の涵養
  - ・地域のステークホルダーとの連携を通じた「共育」環境の整備
- 4 特徴
  - ・各大学の強みを活かした専門コース(経営実務、減災医療、心理カウンセリング、スポーツ実務)を開講
  - ・受講生の学びをサポートするチューター制の導入
  - ・実務領域診断カルテ(ポートフォリオ)の開発
  - ・授業は、E-ラーニングを中心に、その他、昼間、土日祝日、夜間に実施
- 5 開始時期 令和2年1月試験実施開始・モニター受講生募集(受講料無料)



進化型実務家教員養成プログラム



名市大TEEPコンソーシアム  
名古屋市立大学 岐阜薬科大学 高知県立大学 中京大学

## 実務を背景とする大学教員の傾向

**実務家教員採用数** 2009年:1,665人 ⇒ 2018年:1,755人  
**実務家教員採用割合** 2009年:15.0% ⇒ 2018年:15.3%

採用前の状況別 採用教員数 (大学)

	学部新規 卒業生・ 大学院修了者	民間企業	研究所等の ポスト ドクター	研究所等の 研究員	臨床医等	左記以外		計		
						官公庁	自営業			
平成21年度間	1,188	1,048	845	1,286	2,941	492	125	476	2,668	11,066
24年度間	991	1,004	930	1,182	3,203	424	117	462	2,991	11,314
27年度間	1,321	1,152	808	1,087	3,408	468	128	561	3,163	12,101
30年度間	1,001	1,150	561	1,061	3,163	489	116	576	3,370	11,494

(注) 採用とは新たに大学教員となったことという。このため、教員の身分を有すれば、大学からB大学に異動してもここでいう採用には含まれない。

(出典)「令和元年度学校教員統計調査(確定値)の公表について」

[https://www.mext.go.jp/content/20210324-mxt\\_chousa01-000011646\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210324-mxt_chousa01-000011646_1.pdf) (2022年2月15日閲覧)

(注1)赤枠は引用者が加工を施したものである。

(注2)民間企業、官公庁、自営業が出自の大学教員を実務家教員と考えた。

## 実務家教員とは？ 「進化型」実務家教員とは？

**用語の説明：****【実務家教員】**

おおむね5年以上の実務の経験と高度の実務能力を有する大学等の教員。

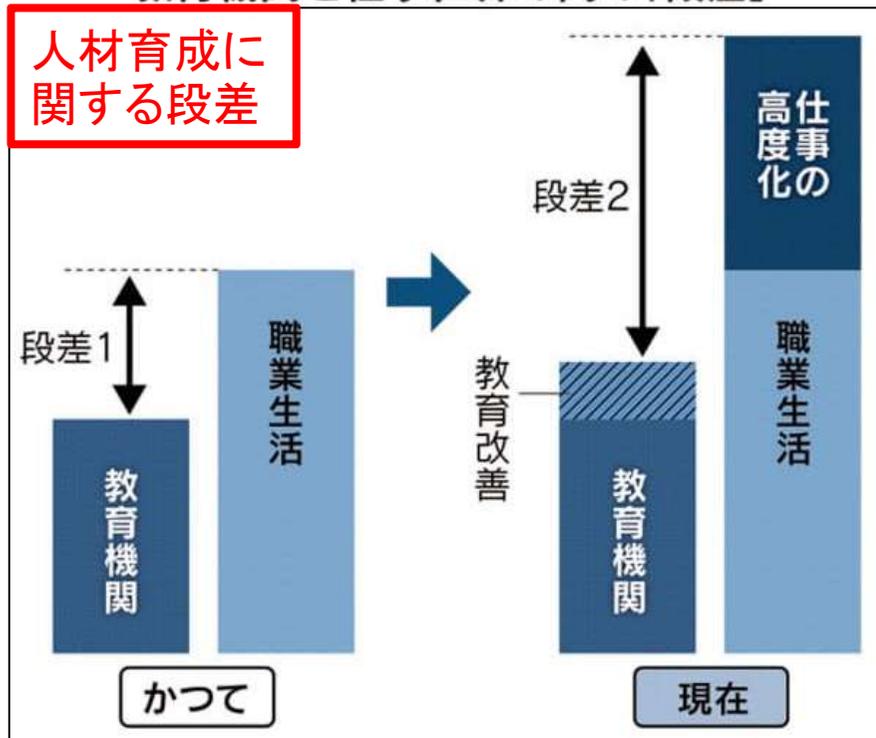
**【進化型実務家教員】**

上記実務家教員の規定に加え、実務家として「一仕事以上を成した」うえで、大学の職に転じた教員。

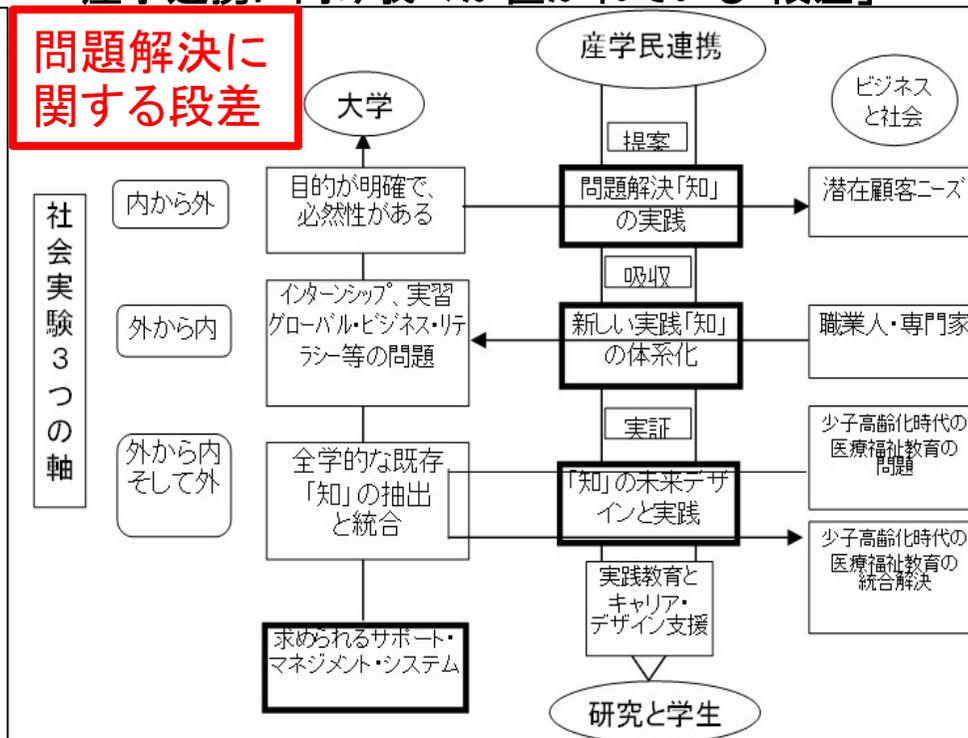
- 基礎理論の応用経験あり
- 組織を動かす経験（組織内マネジメント経験）や全社的な視点にたった仕事の経験あり

## 2種類の「段差」を意識すべき！

### 教育機関と仕事世界の間の「段差」



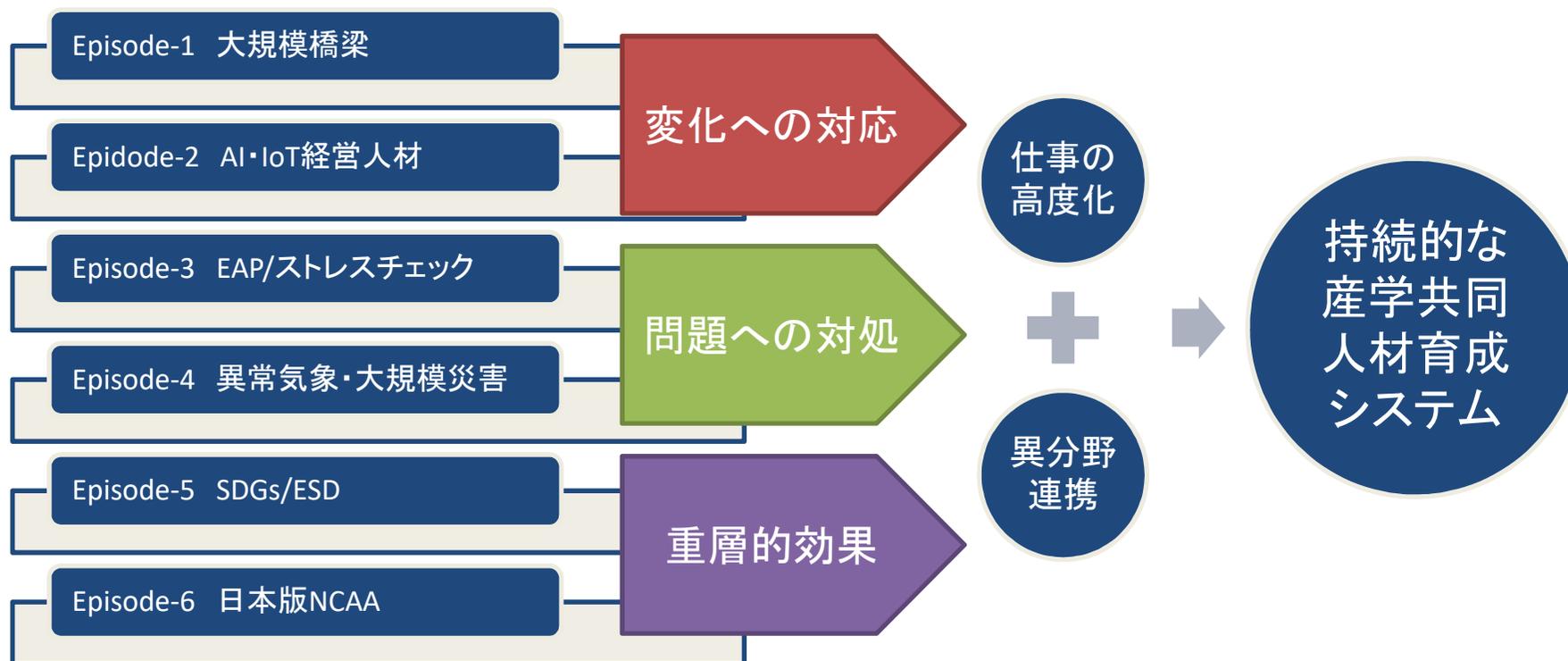
### 産学連携に向け我々が置かれている「段差」



出所：2019年9月23日付日本経済新聞  
「大学教育と職業生活 広がる「段差」実践では正」

作成：鶴飼宏成(2004年11月7日)

## 進化型実務家教員が求められる背景



段差は状況に応じて質が変化するのが常！

段差①  
人材育成

● 探究

段差②  
問題解決

● 創造的  
解決

なぜ、進化型実務家教員養成が求められる？

段差の特性を理解し、解決のための方法を生み出し、ステークホルダーとともに「人材育成」と「問題解決」を実践できる人材の重要性。

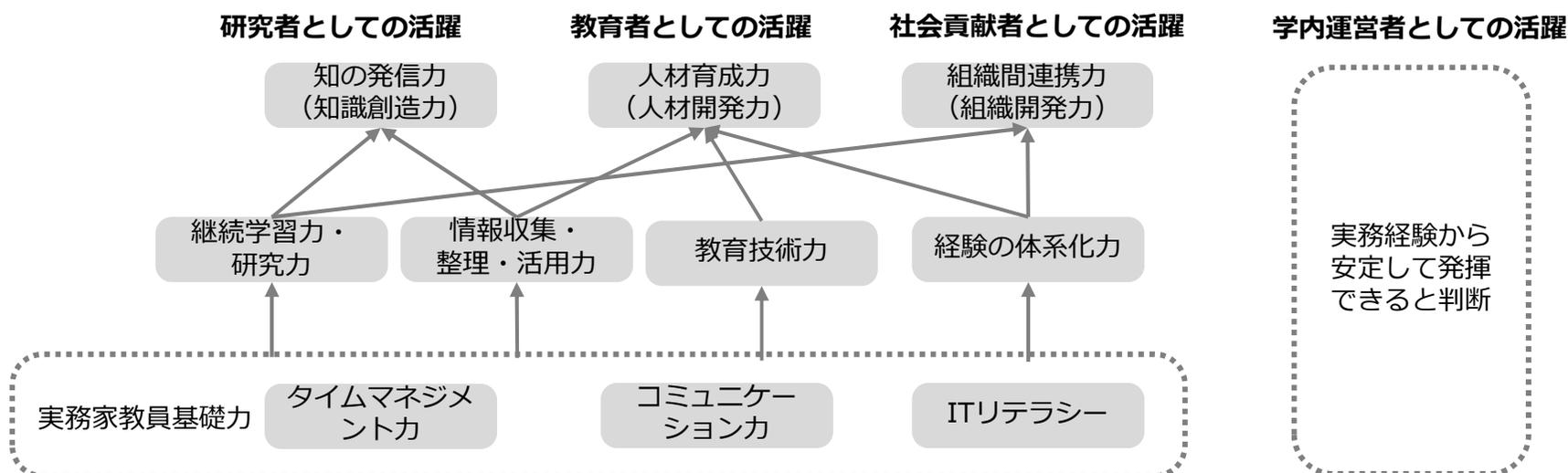
実務家教員には、経験を伝えること《プラスα》が求められる。



# 「安定して発揮できる能力」を構造化する

- 大学教員の4つの使命と「安定して発揮できる能力」を関連づけして構造化する

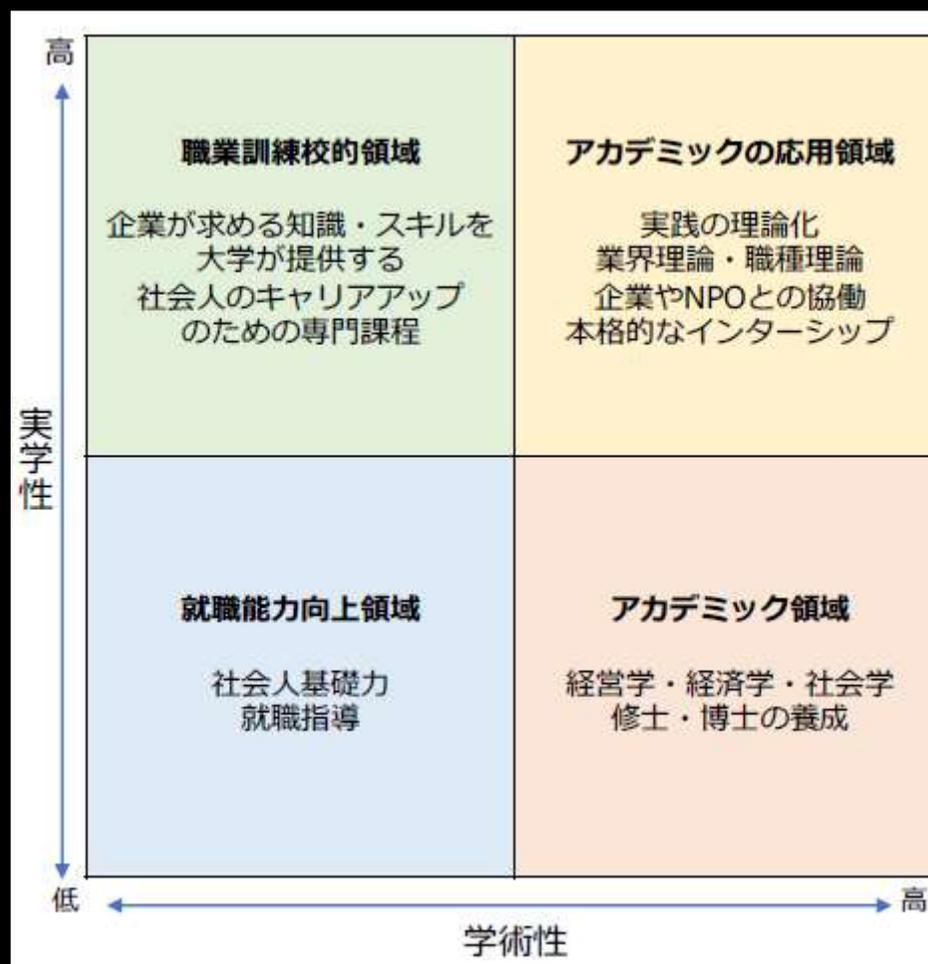
## 進化型実務家教員の4つの活躍領域



出典:名古屋市立大学「進化型実務家教員養成プログラム」ワークショップ 実務領域診断カルテ開発の中間報告Joyworks資料(2020年10月21日)

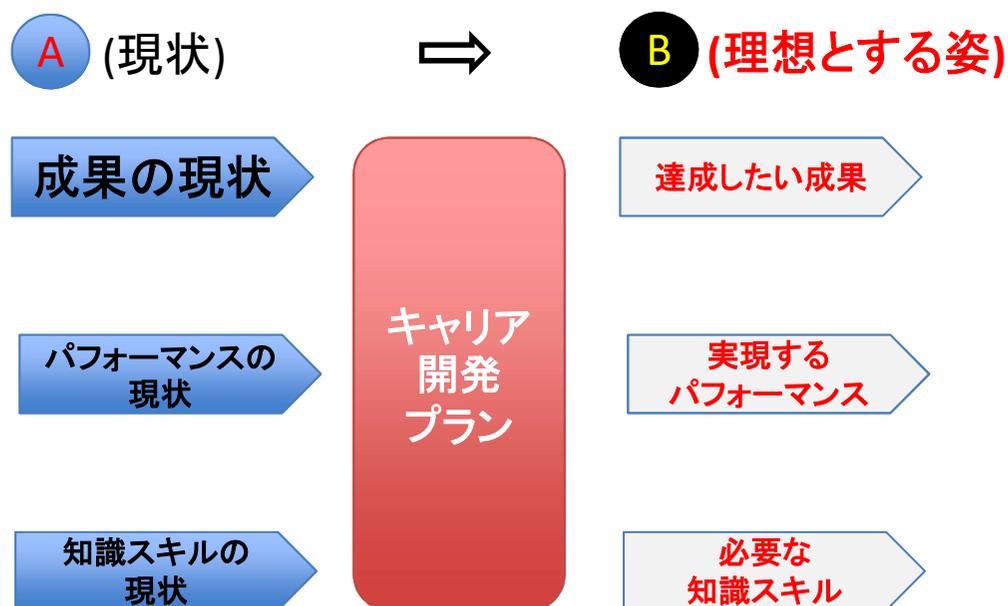
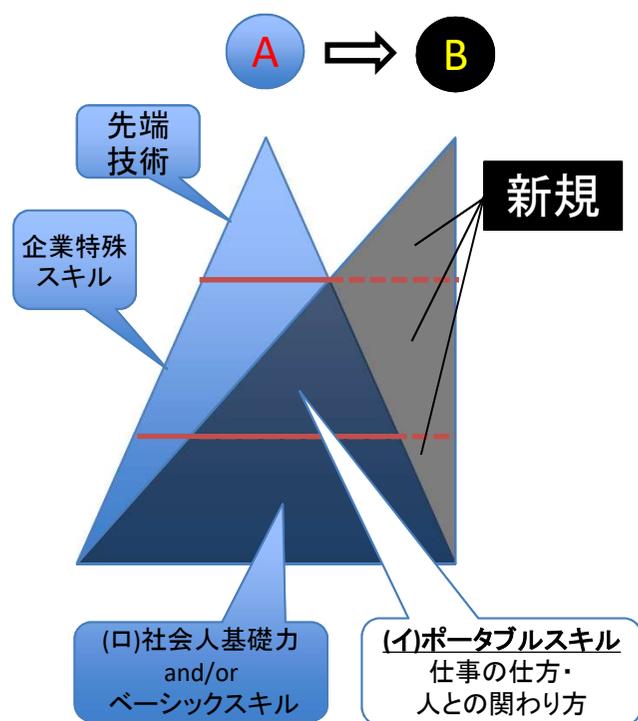
## 実務家教員の活躍領域

- ①アカデミックの応用領域
- ②職業訓練校的領域
- ③就職能力向上領域



(出典)名古屋市立大学委託調査「『進化型実務家教員養成プログラム』における実務領域診断カルテ開発に向けた基礎調査」2020年3月27日、(株)ジョイワークス

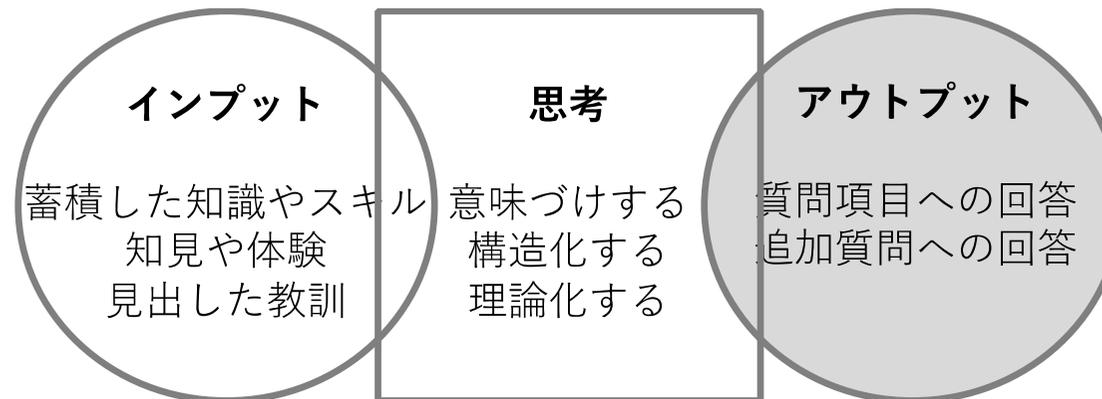
# キャリア開発とリカレント領域 試論(理念型)



**知識スキルをどこで、どのように修得するか  
(4タイプの学習のミックスとして設計されるものでは?)**

## 実務領域診断に関するアンケートで見ているのは「発揮能力」

- 実務領域診断に関するアンケートは、「質問項目への回答」と「追加質問への回答」を先入観や憶測を廃して、客観的に判定する
- 「インプットが不足しているのか」「思考レベルが低いのか」は本人のみ判定できる
- 実務家教員は、実務を通じて蓄積した知見や経験を意味づけし、構造化・理論化して学生に伝えることができるのが魅力である
- 実務家教員を目指す方は、不足しているインプットを増やし、思考力を高めることが求められる
- 実務領域診断に関するアンケートは、実務家教員を育成するための気づきのツールである



## 実務領域診断カルテ(ポートフォリオ)の開発/応用

### 実務領域診断カルテ(ポートフォリオ)の開発と発信

	実務領域診断カルテ項目	ポイント
1	実務家の実務領域の診断	知的熟練の幅と深さ(仕事表等を応用)
2	専門学術分野マップ	専門領域・学際領域マップと強み・弱み
3	多職種連携領域と能力	リーダーシップ、チームング等
4	不足・克服領域の能力開発計画(道程)	能力開発領域・カリキュラムマップ
5	教育基礎知識の評価と講評	教育基礎力の評価
6	教育実習・PBL演習評価と講評	経験学習指導力の評価

知的熟練:変化と問題への対応を可能とする仕事能力  
(仕事経験調査より構造化)

実務家の専門性を研究領域/講義科目のマップ化。特長と強化領域を明確化。

新領域での問題発見・課題設定・克服策実行を多様なステークホルダーと推進できる能力

実務家教員としてのコンピテンシーを高めるための1~3を踏まえた能力開発計画

基本コース・専門コースで履修した科目毎の評価と講評。毎年、TEEP主催の多職種連携PBL演習や社会課題克服プロジェクトに参加することで、実践的教育力をアップデート:継続的記録

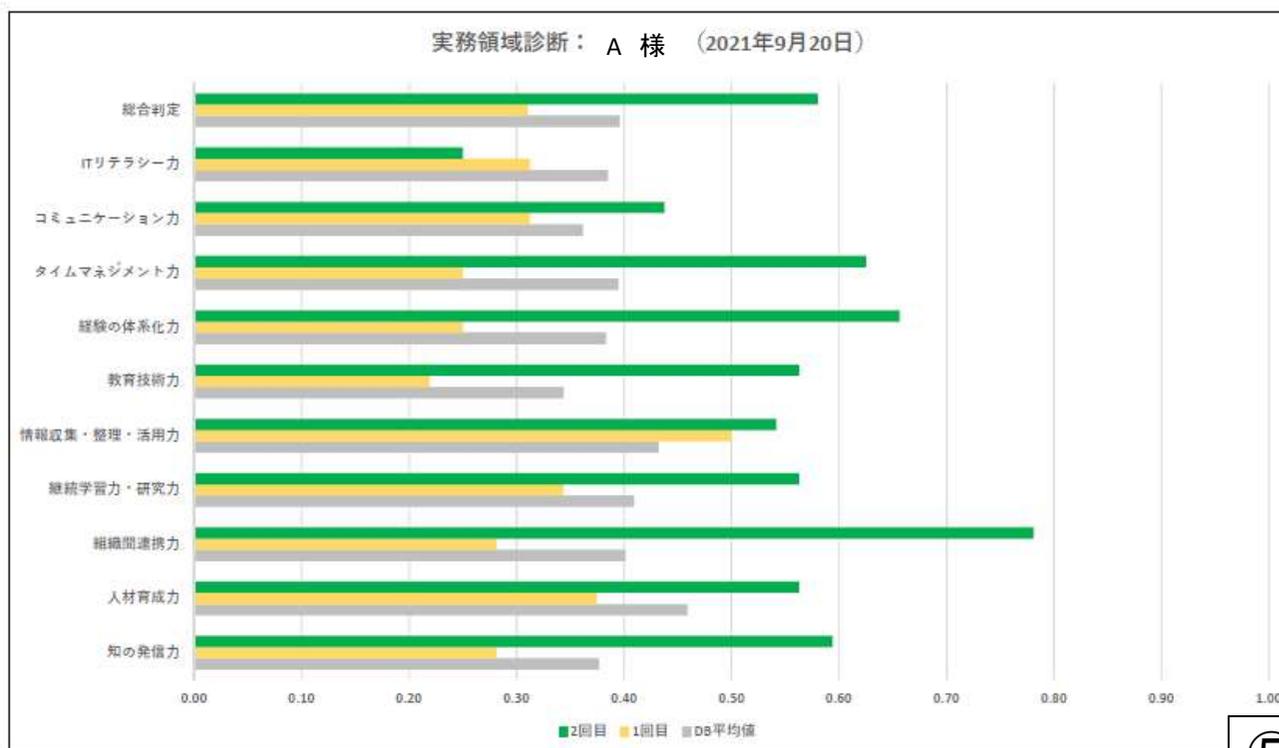
実務家教員養成の基礎資料であるとともに、  
研修修了生のアピール

# 実務家教員コンピテンシーの定期診断結果(例)

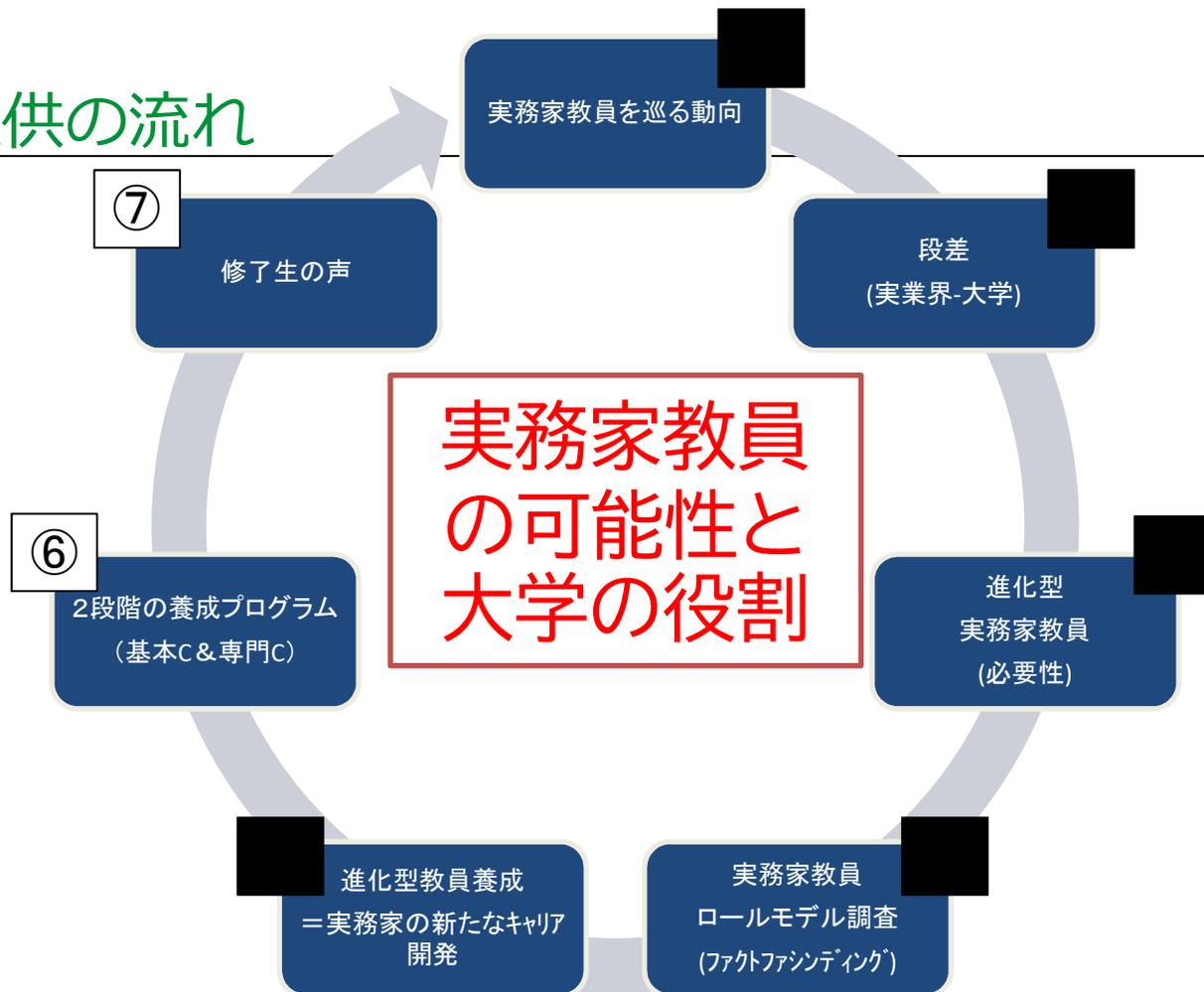
## 実務領域診断カルテ 第2回フィードバック (「安定して発揮できる能力」領域)

	DB平均値	1回目	2回目
知の発信力	0.38	0.28	0.59
人材育成力	0.46	0.38	0.56
組織間連携力	0.40	0.28	0.78
継続学習力・研究力	0.41	0.34	0.56
情報収集・整理・活用力	0.43	0.50	0.54
教育技術力	0.34	0.22	0.56
経験の体系化力	0.38	0.25	0.66
タイムマネジメント力	0.39	0.25	0.63
コミュニケーション力	0.36	0.31	0.44
ITリテラシー力	0.38	0.31	0.25
総合判定	0.40	0.31	0.58

偏差値	60.7
-----	------



# 話題提供の流れ

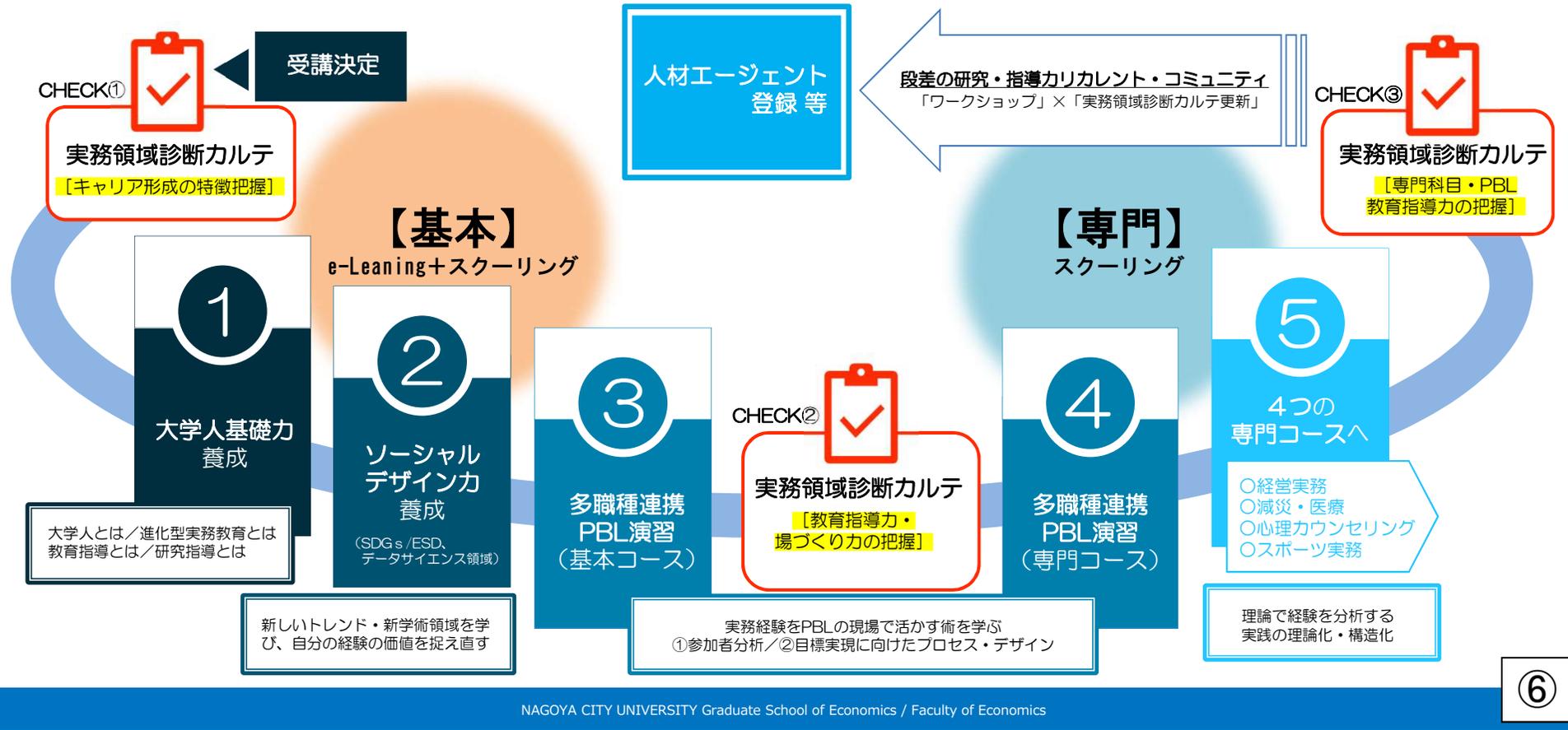


## 「進化型実務家教員養成プログラム」の構造

### 【2段階の履修証明プログラム】

基本コース (新設：Eラーニング + スクーリング)	⇒	専門コース (4コース) (既設置科目活用型スクーリング)
(狙い) <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育指導力の修得 (大学教育概論、教育方法、研究方法、ソーシャルデザイン能力を含む)</li> <li>・産学官民協同で社会課題克服のプロジェクトを創出し、教育の場づくり (多職種連携 PBL 演習として実践)</li> </ul> (参考) 基本コース担当：名古屋市立大学 (高等教育院、人間文化・経済学・理学等の研究科)		(狙い) <ul style="list-style-type: none"> <li>・各コース指定科目内より、実務家教員希望者のストロングポイントを伸ばし、ウィークポイントを克服する科目履修と選択</li> </ul> (参考) 経営実務 減災・医療 心理カウンセリング スポーツ実務
60 時間以上の講義 + 10～20 時間実習	4 科目 8 単位相当の履修	
職能力診断カルテの事前、事後チェック (職務・教育力・専門分野のポートフォリオ)		

# 進化型実務家教員養成プログラム 学修プロセス



## 「進化型実務家教員養成プログラム」の受講料及び定数



- ・基本コース…名古屋市立大学大学院人間文化研究科「都市課題プロジェクト研究」に位置づけ  
2021年度10名、2022年10名、2023年度20名

入学検定料: 9,800円

受講料: 142,600円(名古屋市住民等以外の場合は152,600円)

※入学料、学生教育研究災害傷害保険料、科目等履修生としての授業料および  
TEEP指定プログラムの受講料を含みます。

※別途、PBL演習の旅費がかかる場合があります。

- ・専門コース…名古屋市立大学「経営実務コース」、「減災・医療コース」  
中京大学「心理カウンセリングコース」、「スポーツ実務コース」の4コース設置  
各コース 各年度 定員5名

入学検定料: 10,000円程度

受講料: 130,000円～160,000円程度(4科目以上履修する場合は取得単位ごとに加算)

※名古屋市立大学では、大学院科目の科目等履修制度を活用⇒後の大学院進学にもメリット

# TEEP

進化型実務家教員  
養成プログラム  
NEWS LETTER

VOL. 22

高度化・複雑化した社会の動向や最先端の技術等を分かりやすく解説し、教育できる高度専門人材「進化型実務家教員」を養成するプログラム「TEEP」の2021年度基本コースが修了しました。さまざまな業界・業種での豊富な実務経験を持つ受講生たちは、半年間のコースを終えて何を学び、何を身につけたのでしょうか。受講生有志による座談会から振り返ります。

(司会：名古屋市立大学大学院経済学研究科教授 / TEEP実施委員長 鶴岡宏成)

## 実務家教員としての「あり方」を学びあった6ヵ月 — TEEP基本コース 受講生座談会 —

### 多様な背景を持つ受講生

—— まずは皆さんがTEEPを受講した動機や、受講前に持っていた問題意識を聞かせてください。そして、受講後にそれがどう変わったかも簡単に教えてくださいませんか。

**Aさん** 自分のキャリアについて考え始めた時、読んでいた本にTEEPが紹介されていました。教育に関する講座を受けておくと、退職後に独立して講演をする時にも役立つと。独立は考えていませんが、何かを伝えるための素養は身につけたいと思いました。

受講してみると、実務経験が長いとか、独立しただけで講演が依頼されることなどあり得ないと気づきました(笑)。身につけた経験や知識を体系立てて言語化・理論化しなければ、講義も講演もできませんよね。TEEPでは受講前の期待をはるかに超えた気づきや学びがありました。

**Bさん** 私は普段から母校の大学院のゼミに参加することが多いのですが、メンバーの役に立つ発言ができていないのだろうか、という疑問を抱いていた。TEEPの中の「研究指導論」に興味を持って受講し

めたのですが、自分が修士課程にいた時よりも、「研究」の意義や方法を明確に捉えられるようになったと感じています。

**Cさん** 長年勤めた会社を退職して、これまでやってきた仕事を若い人にどう伝えられるかを試したいと思って受講しました。講義を通じて教授法はもちろん、私自身のこれからのキャリアや、働く上で大切にしたいことを発見できたのが大きな収穫でした。

**Dさん** 私は大学職員です。大学は今、大きな変化の中にあるのですが、TEEPを通して視野を広げ、まずは自分に何ができるのかを明らかにしたいと思っていました。受講して自分の強みと今後の課題の両方が明確になりました。

**Eさん** 私も実務家教員になりたいというよりは、論理的に話すスキルを得たいとか、会社の経営者として最新の知識を応用した事例を知りたいといったことが受講の動機でした。受講生の中には大学院で論文を書いた経験がある方もおられ、すでに理論立てて説明することに長けていて、すごいなと尊敬しました。

**Fさん** 私はガス会社で震災時にインフラの復旧の現場を経験し、企業のBCPの作成支援など「レジリエン

TEEP

 進化型実務家教員  
養成プログラム

NEWS LETTER

VOL. 22

 発行所：TEEPコンソーシアム(産学連携推進センター)  
発行日：2021年12月1日

 連絡先：名古屋市立大学 教務部 企画課 1号館401号  
E-mail: teep@ncs.nus.ac.jp

〒466-8601 名古屋市中区南大塚1-1-1(東山)



**Eさん** 期間中はコロナ禍で難しかったのですが、本当は一回くらいは皆さんとリアルで懇親会をしたかったですね。

**Dさん** 受講生は全員社会人ですから、仕事との両立が大きなハードルになります。どの時期に、どれくらいの予習が必要か、課題にどれくらいの時間を割く必要があるかの見通しを事前に示してもらえると、受講期間中の業務量の調整がしやすくなると思いました。

**Bさん** たしかに仕事をしながらの受講は大変でした。しかし、厳しい環境でこそ自分の力がついていく実感もありました。何より多様な経験を持つ皆さんと一緒に学べたことが、本当に良かったと思います。

—— いただいたご意見は次期のTEEPにいかしてまいります。この半年間を通じて、皆さんはご自身の経験を振り返り、確実に表現力を高めてこられました。TEEPも、基本コースを終えた皆さんも今が“出発点”だと思います。今後も共にキャリアを構築していく仲間であり続けたいと思います。ありがとうございました。

- 受講者情報  
※実務経験(経験年数)
- Aさん：製造企業(約35年)
  - Bさん：不動産管理会社(約20年)
  - Cさん：製薬企業(約30年)
  - Dさん：高等教育機関(約25年)
  - Eさん：広告企業(約35年)
  - Fさん：インフラ系企業(約30年)
  - Gさん：行政機関(約30年)
  - Hさん：医療機関(約30年)
  - Iさん：福祉機関(約25年)
  - Jさん：広告企業(約35年)

**Eさん** 経営者として「人を大切にする経営」をしている企業の魅力を伝え、規模や知名度だけでなく広い視野を持って企業を選べる学生を育成したい。学生と共に企業訪問を行うなど、共に成長していきたいです。

**Fさん** 「レジリエンス経営」の第一人者となるべく、修士課程に進み、研究を進め具体的なメソッドの確立を目指したいです。中小企業診断士として実務に携わりながら、研究の成果を学会や診断士協会、大学や商工会などで広く発表していきたいと思えます。

**Gさん** 今後も引き続き行政職員として住民役に立てるよう務めていきたい。自身の経験を基に調査・研究を進め、自治体職員になるためにはどんな学習をしておくべきかを伝えられるようになります。

**Hさん** 経験を体系化、データ化し客観的に伝えられるとともに、学生が実践と教科書に書かれている理論のつながりに気づくよう専科教員でありたい。他者を受け入れ理解すること、万人に分かる言葉で説明することで、多職種や多様な個性を持つ学生と丁寧に関わっていきたい。

**Iさん** ①臨床②研究③教育の3つの軸で立てる教員でありたい。臨床で得た知見を言語化・理論化・モデル化し、論文にまとめたい。教え方の工夫やブラッシュアップも重ねていきたいです。

**Jさん** ブランディングとマーケティングの分野の知見をタイムリーに体系化し、産学連携で新たな価値を生み出す教員でありたい。業界の最先端の実務と研究活動をどう両立させていくかが課題です。先生方とも相談しながら試行錯誤していきたいと思えます。

—— 今後のTEEPに対する期待や、改善すべき点があれば教えてくださいませんか。

**Cさん** 今日の座談会でお聞きした、受講の動機などは初回の講義でお聞きしたかったかな。(笑) 受講生同士がより親近感を持って交流できたように思います。

2022年1月に「2022年度基本コース受講生」を募集いたします。具体的な募集方法については、Webサイトにてご案内させていただきます。 <https://teep-consortium.jp/>



TEEPコンソーシアム

 中核校：名古屋市立大学  
連携校：岐阜薬科大学 高知県立大学 中京大学


TEEPコンソーシアム

 中核校：名古屋市立大学  
連携校：岐阜薬科大学 高知県立大学 中京大学

ス経営」の促進に関わりたくと考え中小企業診断士の資格を取りました。TEEPでは「経営実務」「減災」のテーマを扱うとあり、自分にピッタリの講座だとすぐに出願しました。防災に関わる企画を立てる演習もあり、TEEPで学んだことがすでに今の仕事に役立っています。

**Gさん** 私は公務員です。仕事の上で不十分だと思っていた「調査」「研究」「論理的に考える力」をつけたいと考えていました。大学でゲスト講師として登壇させていただくこともあり、もっと学生さんへ伝える力をつけたいとも思っていました。TEEPではディスカッションやお互いの模擬授業を見ることで、他の受講生との学びあいの機会があったことが良かったです。

**Hさん** 看護管理者の仕事をしています。TEEPでは、学ぼうとする人たちが何を期待しているのかを、自分から積極的に関わって知っていくことや、自分の伝えたいことをしっかり言葉にして伝えることで、学生さんのモチベーションを上げられると知ることができました。

### 講義と実践の両面で力をつける

—— TEEPの中で特に印象に残っている講義や演習はありますか。

**Aさん** 何と言っても「多職種連携PBL演習」です。自分の子どもよりも若い大学生の皆さんの考えをお聞きでき、大変刺激を受けました。私も負けていられない、もっと勉強しなければと強く感じましたね。

**Bさん** 私もPBL演習です。おとなしかった学生さんたちがプロジェクトの後半には積極的に発言するようになり、最終的にグループで一つの成果物を完成させたのには感動しました。「次世代エネルギーを考える」というテーマも素晴らしい、自分自身も大いに学び機会になりました。

**Fさん** PBL演習では議論を活性化させるための技術を学べたのも良かったです。また、以前に勤めていた会社で取り組んでいたのは主に「低炭素化」でしたが、今や社会が目指すべきは「脱炭素」だと気づかされ、私も必死で調べて勉強しました。

**Eさん** オンラインでワークショップをするのは初めての経験でした。今ではTEEPで学んだ手法を、仕事のリモートでのコミュニケーションにいかしています。

**Cさん** 私は模擬講義です。「もう自分が授業をするの

か」と焦りましたが、やってみると楽しくて。授業の準備をしながら、自分の経験から他者に伝えるべきことが見えてきたと同時に、知識の足りなさや、もっと学ばなければならないこともよく分かりました。

**Gさん** 他の受講生の模擬授業を受けるのも本当に面白く、参考になりました。自分の考えを「5分で話してください」というトレーニングや、全くの異業種の方に自分の専門分野について説明する経験は、伝え方の勉強にもなりました。

**Hさん** 私はプログラミングを体験したことが印象に残っています。教わった通りにやってみると、全く未経験だった自分にもできて楽しかったです。普段使っている電子カルテもこういう考え方でできているんだと分かりました。

**Dさん** eラーニングの動画コンテンツの内容も大変参考になりました。先生方にはこれからの大学が目指していくべき姿を明快に解説していただき、大学職員としても勇気づけられました。

### 企業でも役立つ実務家教員としての力

—— TEEPを受講して、自分自身が変わったと感じられることは何でしょうか。

**Dさん** 模擬講義では自らの経験を言葉にする困難にぶつかり、「キャリア開発シート」を書く時には「これから自分はどうなりたいのか?」に悩みました。インプットとアウトプットを繰り返すカリキュラムを通して、自分の足りない部分に気づけたと思います。

**Bさん** 「自分に何ができるか」も見えてきましたよね。自分の場合は先生方との面談や「マルチサイクル・デザイン※」によって、営業や企画、チームリーダーとしての役割に強みを発見できました。今後はこれらを伝える方法を考えたいです。

実は今日、職員の採用説明会がありました。学生からの「新卒社員に求められる力は何ですか?」という質問に「上司から指示を受けた時、自分は本当にその指示の内容を適切に理解できているか?と考えられる、論理的思考と批判的検証力が必要だ」と答えることができました。具体的な事例と抽象的な概念を結びつけて説明する言葉がずっと出てくるようになったのは、TEEPを受講した成果だと思っています。

**Aさん** 私はこれまででも会社では部下を指導する立場でしたが、伝えるべきことを言語化することも、体系

立てて説明する力も不足していたことに気づき、謙虚になれたことが大きな変化です。

日本の企業では「カン(勘)」や「コツ」と呼ばれる暗黙知は見えて覚えるもの、真似るものとされ、長く言葉にされないできました。しかし異分野の人と協働したり、外国人社員と一緒に働くことが求められる時代には、やはり言語化しないと通用しません。大手の製造業でも技能工・多能工の持つ暗黙知を形式化するためにビッグデータを活用する動きがありますが、あらゆる教育の場にも同じことが求められているのでしょう。

—— TEEPは実務家教員養成のプログラムですが、皆さんのお話をお聞かせしていると教育力はもちろん、多様な学びがあったように感じます。実務家として、今のお仕事に活用できそうなTEEPでの経験が他にもあれば教えてください。

**Eさん** 「実務領域診断カルテ」や「マルチサイクル・デザイン※」はそのまま社員と一緒に使っていきたいと感じました。「キャリア開発シート」を用いて学んだ、ありがたい未来の姿から逆算してプロセスを組み立てていく「バックキャストリング」の考え方も、新事業を考える時に活用しています。

**Bさん** PBL演習の経験は、社内の課題解決にも役立つのではないのでしょうか。部署を超えて様々な社員とともに具体的な改善方法を考えていく手法を学べたと感じます。

**Fさん** PBL演習をスムーズに動かすために、最初に個人で書き込むワークシートも参考になりました。社内研修でも、受講者の考えを整理するためのツールが必要だと気づきました。

**Cさん** ビジネス経験を言語化・理論化して伝えられるようになれば、学生に対しては社会人に対しても同じように価値が発揮されると思います。たとえ教壇に立たなくても、実務家教員としての質を高めることは、自身のコンピテンシーを高めること

です。TEEPで学んだことは企業でもいかされるのではないのでしょうか。

—— 「TEEP」の2021年度基本コースを学び、修了生が目指す進化した実務家教員像とはどのようなものでしょうか。

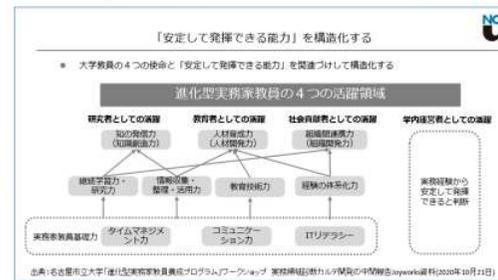
**Aさん** 企業で経験した工程の整理化や業務のノウハウの蓄積方法などを言語化・体系化して部下や学生たちに普遍的な考え方として伝えていける実務家教員でありたいと思います。学ぶ人の気づきを引き出す、ファシリテーターとしての役割に努めたいです。

**Bさん** 「利益以上に追い求める指標がある社会」を推進できる教員でありたいですね。特にNPS (Net Promoter Score 顧客ロイヤルティを測る指標)の活用を教えたい。学びを深化させるため、TEEPの専門コースの受講や博士後期課程への進学も検討しています。

**Cさん** 学生が大学で学んだことを企業でいかにするための橋渡しができる、教養と実務のスキマを埋められる教員でありたい。人材育成の理論を早くから学生に伝えることで、学生が早く即戦力になれるとともに、ミスマッチによる早期離職も防ぐことができたらと考えています。

**Dさん** 介護・福祉の現場の人材育成に関する課題解決やコンサルテーションができる教員でありたい。軸足は現場に置き、現場で起こったことを体系化・言語化し、必要な時にタイムリーに現場や学生に指導できることを目指したいと思っています。

### 実務領域診断カルテにおけるコンピテンシー



※リクルートワークス研究所発行の「マルチサイクル・デザイン(原本)」を参考にしています。



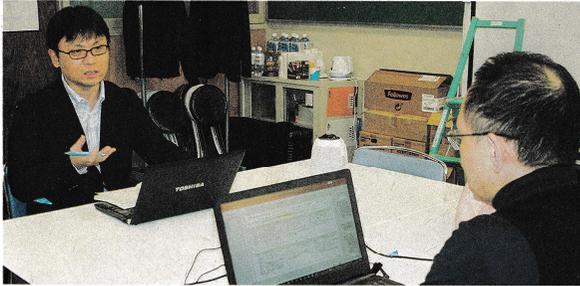
# 企業での経験 学生に教えよう

## 名市大が実務家教員養成講座

企業や官公庁で培った経験を生かして大学などで教育や研究にあたる「実務家教員」の養成が、各地の大学で進められている。国内の拠点の一つになっている名古屋市立大(名古屋市中)は、四月からの新年度に始まる「養成プログラム」の受講生を募っている。

### 4月開講 受講者募る

実務家教員は、即戦力となる人を育てる「専門職大学」などで広く採用されて



実務家教員のキャリア形成について、鶴飼教授と面談する吉本さん。名古屋市立大で

いる。社会人向けの「学び直し教育」などを担う人材として、人材確保とともに質の向上が課題になっている。

名市大が代表となり、中京大(名古屋)は、社会人向けの養成プログラムでは、社会や実務の課題に対処してきた経験を体系化し、学生に伝える技術を磨く。大学での学びは、自身の職場での業務の進め方や部下との接し方を見直す機会にもなっているという。

名市大を中心にしたプログラムは昨年四月にスタート。九月までの基本コースで受講生十人が学生のワークショップを指導する演習などに取り組んだ。十月からは受講生五人が専門コースに進んでいる。

注力するのは、なりたい教員像を具体的に描いてもらうこと。人材育成の力や組織を連携させる力など、実務家教員が身に着けるべき十の能力を示し、プログラムを通じ達成度も分かるようにした。

### 仕事を見つめ直す機会に

受講生は、プログラムを担当する鶴飼宏成教授(五七)起業家教育と定期的に面談し、仕事で得た能力や成果などを詳細に書き出し、自分の専門性も見直す。自身も民間シンク

市や岐阜薬科大(岐阜市)などが参加するグループは、文部科学省の事業に採択され、昨年四月から受講生を受け入れている。

夜間や週末のオンライン授業を中心に、大学で授業や研究をするのに必要な知識やスキルなどを学ぶ。出願は十九日まで。大卒卒業程度の学力があり、実務経験が五年以上と条件がある。定員十人で書類と面接で選考される。詳しくは一進化型実務家教員養成プログラムで検索。

タンクでの勤務経験がある鶴飼教授は「実務経験を伝えるだけでは、教員としてやっていくのは厳しい。不足する能力や経験は、実務でも一度培う必要があると気付いてもらえたら」と話す。これらの過程が、自分自身や仕事を見直すことにもつながる。

専門コースに在籍する今川隆さん(五七)名古屋市緑区はインフラ系企業で約二十年、防災やリスク管理などの業務を担ってきた。「授業で」学生が発言しやすい方法を考えたことで会社でも部下が学びやすく、意見を言いやすい環境が作れているか意識するようになった」という。

同じく専門コースで学ぶ吉本修三さん(四〇)同市東区はマニション管理会社で営業などに従事。「自分の仕事や経験を振り返ることで専門の幅も広がり、もっと研究を深めたくなった」と話す。二人は専門コースを終えた後、大学院への進学を考えているという。